

2017年9月20日(水)

FPCJ プレス・ブリーフィング

中国共産党大会と今後の日中関係

川島真(東京大学)

◎中国共産党大会(2017年10月18日～)に向けて

1) 集団指導体制から権力集中へと向かうのか?

a) 胡錦濤 Hu Jintao 時代の多頭制から権力集中制への移行(決断できる政権への移行)

▷結果的に resilience が失われ、きわめて「硬い」政策、政権に。

▷反腐敗防止運動は、権力集中への過程。権力集中が「完了」すると?

→習近平 Xi Jinping 政権が「硬い」政府になっていくことを促進?

b) 権力集中の制度・思想的な裏付け

*新たな思想: 重大思想

中国共産党組織部『党建思想』(2017年7月14日)

「在党的创新理论伟大旗帜下阔步前进」に習近平思想

*胡耀邦 Hu Yaobang 以来の「党主席制度」の復活か

▷習近平への権力集中を制度的に強化。そのために(圧倒的)過半数が必要。

▷七人制維持か、あるいは人数を増員するか。王岐山留任問題は下火か。

2) 人事の予測の仕方

a) この数年間で地方首長人事は基本的に習近平グループへと転換

→逆にこの数年間人事異動がなかった人物が中央政治局常務委員に？

→孫政才 Sun Zhengcai（重慶）と胡春華 Hu Chunhua（広東）が残されていた。

孫政才の粛清。

陳敏爾 Chen Min'er（貴州→重慶）：2013年からの貴州省。習近平側近。

孫のあとに重慶。

b) 習近平のブレーン：王滬寧 Wang Huning、栗戰書 Li Zhanshu、劉鶴 Liu He

米中首脳会談の時の顔ぶれ。

あるいは習近平の浙江時代、福建時代それぞれの部下たち。

陳敏爾は浙江省時代の部下。

c) 国務副総理からの入閣は？

国務院副総理 汪洋 Wang Yang(62歳) 中国共産党中央政治局委員

このほか国務委員には、楊晶（秘書長、63）、常万全(68)、楊潔篪(67)、郭声琨(73)、

王勇など。

d) その他の勢力の動き

→韓正 Hang Zheng(63)、上海市党書記、江沢民系統。

3) さまざまな動向

・ 8月上旬の北戴河の会議中、胡春華や韓正は自らの任地での仕事を多く入れる。

・ 柯俊と朱英国という科学者が逝去。トップセブンのうち6名までが献花。

しかし、王岐山 Wang Zhishan は何もせず。姿見せず。（これも慣例との話も）

- ・その後、王は姿を見せる。しかし健康問題も。

◎ 対外政策の動き

1) 習近平政権第一期の「成果」

- ・ 米中新型大国関係：大国外交
- ・ 一帯一路：周辺外交のユーラシアへの「拡大」
- ・ 米中首脳会談→一帯一路フォーラム→AIIB/G20→米中戦略対話

2) 新たな外交政策への序曲？

- ・ 楊潔篪：深入学习贯彻习近平总书记外交思想 不断谱写中国特色大国外交新篇章

(7月17日付の文書)

(習近平が依拠すべき論理、思想がマルクス主義だけに。毛沢東、鄧小平、胡錦濤などの名はなし)

→ 内政・外政の面で習近平思想 = 「マルクス主義中国化の最新成果」との位置付け

◎ 日本の位置付け

1) 大国外交と拡大版の周辺外交

- a) 経済力を用いた政治外交、安全保障への転化
- b) 海軍力、空軍力、宇宙・サイバーでの能力強化
- c) 第一列島線・第二列島線：東への進出も進むがコスト大 ▷ 西進論へ

→ 日本は経済力で言うことを聞かせられない存在

2) 中国包囲網への懸念

a) トランプ政権下の TPP と安全保障などによる、東アジア、インド＝太平洋地域でのマ

ルチ型枠組み

→ 中国にとっては大きな圧力、日本がそれを主導しているという見方も

b) 2016 年、習近平自身は世界秩序に挑戦しない。しかし、ほぼ同時に全人代外交委員長

が「世界秩序」を定義。アメリカの安保体制、アメリカによる民主自由などの思想、

国際連合 … 中国は最後のひとつ、つまり国際連合にしか従わない

3) トランプ政権という「変数」

▷アメリカからの（トランプが与えてきた）圧力は減少

▷アメリカを中心とする国際秩序が動揺？

→急速なドイツへの接近、あるいは日本への接近も？

4) 戦略的、短期的「静けさ」の中の日中関係

▷尖閣諸島問題、靖国神社参拝問題など。2017 年の静けさ